

## カンキツグリーンング病原細菌の虫媒接種法

(本文 16 ページ参照)



(左上)

口絵① カンキツグリーンング病に感染したユズ葉の病徴  
保毒虫の接種終了から約2箇月が経過

(右上)

口絵② ミカンキジラミ成虫

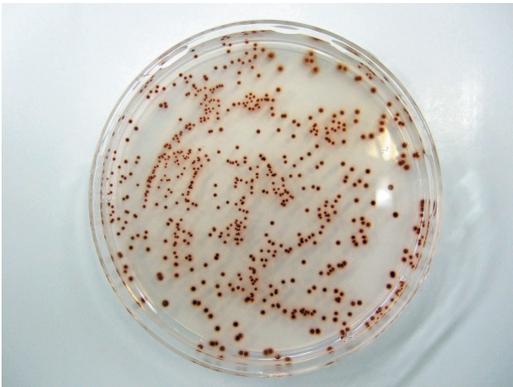
(左下)

口絵③ ミカンキジラミ 5 齢幼虫

井上 広光氏原図

## ブドウ黒とう病菌の分生子形成および接種方法

(本文 40 ページ参照)



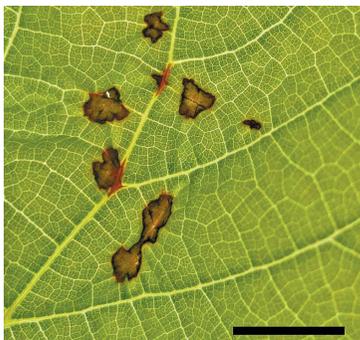
(上)

口絵① 1/10PDA 培地で培養 10 日目の黒とう病菌  
一つ一つが独立の分生子に由来するコロニーであり、菌糸が培  
地全面に進展することはない。ラージスケールでの分生子形成  
にはこの程度のコロニー密度のプレートを用いる。

(下)

口絵② 切葉接種後 14 日後の病斑例  
バーは 5mm. 欧米雑種ブドウの‘コンコード’ (左), ヨーロ  
ッパブドウの‘シャスラ’ (中) および‘イタリア’ (右) の病  
斑例。同じヨーロッパブドウでも病斑径に明らかな差がある。

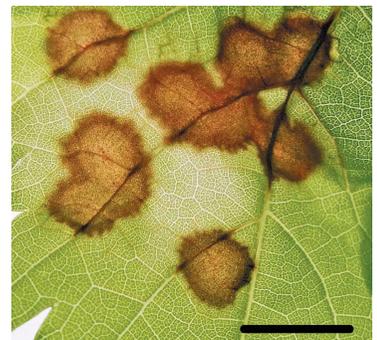
河野 淳氏原図



品種 ‘コンコード’



品種 ‘シャスラ’



品種 ‘イタリア’

## カンキツウイルス病の病原性検定法

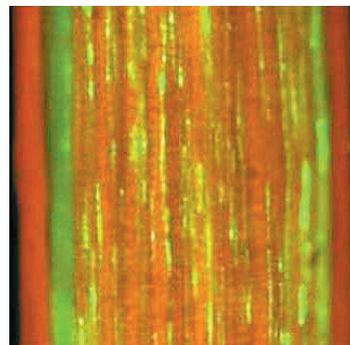
(本文 9 ページ参照)



*Nicotiana benthamiana*



カンキツへの精製ウイルス画分接種



カンキツ節部の GFP 蛍光観察

口絵① CTV 感染性クローンを用いたカンキツへの接種法

- (左) 播種後 1 箇月ほどの *N. benthamiana* にインフィルトレーション法で CVT を感染させる。
- (中) その 1 ~ 2 箇月後、CTV 濃度が高くなった頃に感染性ウイルス粒子を精製し、パークフラップ法によりカンキツへ接種する。
- (右) GFP の蛍光発現を節部組織 (樹皮内部) や葉脈で観察できるため、組み換え CTV が感染しているかどうか目視でも確認できる。

宮田 伸一氏原図

## リンゴウイルス、ウイロイドの病原性検定法

(本文 30 ページ参照)



口絵① ACLSV 普通系分離株間におけるマルバカイドウ MO-84a に対する病原性の違い  
(二重芽接ぎ法による接種後 3 ヶ月目)

左 2 つ：無接種、中央 2 つ：軽症系、右 2 つ：重症系



口絵② ASSVd 分離株間における 'スターキング・デリシャス' 果実への病原性の違い (高接ぎによる健全結果樹への接種後 10 年目)  
左から分離株 PI-20, P-128, PK-6 (軽症系)

伊藤 伝氏原図